

令和7年度「秋の里山で身近な生き物を探そう！」

日 時 令和7年10月11日（土） 午前9時30分から

行 程 東三河ふるさと公園御津側駐車場 → 御津側管理棟 → 憩いの広場
→ 御津側駐車場にて解散

当日の様子



今回の「秋の里山で身近な生き物を探そう！」は東三河ふるさと公園で開催しました。

当日は小雨が降る中でしたが、10人が参加して、東三河自然観察会の天野保幸先生達と東三河ふるさと公園に生息する動物や植物などを観察しました。まずは駐車場にて、いまここで花を咲かせている草は何種類みつけれられるかといったクイズが出されました。4種類や7種類といった声の中、実際に天野先生が種名を挙げながら数えたところ、約20種類の植物が花を咲かせていました。見渡すだけでは見つけれなかった花も説明を聞くと意識にとどまるようになり、このクイズで参加者の目が「自然を見る目」に切り替わったようでした。

クリ、アベマキのどんぐり、バッタやカナヘビを見つけながら御津側管理棟まで移動します。管理棟内では東三河自然観察会の笠松由美先生より植物の紅葉の仕組みの説明や、生き物に関するクイズの出題がありました。竹は1日に120cmも伸びた記録がある、世界一深く巣を掘るクロナガアリの巣は4mに達するなど、驚きの答えに参加者は興味津々でクイズに参加していました。

管理棟を出ると雨は止んでいました。クサギとゴンズイの違いなどを観察しながら憩いの広場まで進みます。広場では天野先生が飛んでいた「ウスバキトンボ」を捕獲。ウスバキトンボは渡りをするトンボで飛行能力が非常に高いとのこと。その後駐車場まで戻り解散となりました。



↑ 開花植物を観察



↑ ヨモギの花



↑アベマキのどんぐりの帽子



↑管理棟にてクイズを実施



↑クサギの実



↑ウスバキトンボ

観察した主な植物等

アオハダ、アカメガシワ、アベマキのどんぐり、アラカシ、アレチノギク、アレチハナガサ、イタドリ、イヌザンショウ、イヌタデ、オオバヤシヤブシ、カタバミ、キツネノマゴ、クサギ、クズ、クチナシ、コセンダングサ、コナラのどんぐり、ゴンズイ、シナダレスズメガヤ、ジュズダマ、ススキ、スズメウリ、セイタカアワダチソウ、タチスズメノヒエ、ツクシハギ、ヒナザサ、ママコノシリヌグイ、マルバハギ、ムラサキシキブ、ヤマハゼ、ヨモギ、ランタナ、リュウキュウマメガキ 他

観察した主な動物

ウスバキトンボ、ウラナミシジミ、オオスズメバチ、カナヘビ、キチョウ、ショウリョウバッタモドキ、シロガネイソウロウグモ、チャバネセセリ、ツチイナゴ、ツバメシジミ、トノサマバッタ、ナガコガネグモ、ハラビロカマキリ 他

参加者の声（参加者アンケートより抜粋）

- ・身近にある植物の名前が知れておもしろかったです。
- ・もっと植物に目を向けて歩いていきたいと思いました。
- ・いろいろな虫の紹介が詳しくて嬉しかったです。

などのご意見をいただきました。